

学びを生かす！

昨年度、内地留学を経験された先生方に、今後の教育実践に生かしていきたい思いを綴っていただきました。



● 特別支援教育に携わって

朝日町立さみさと小学校
広田 聡美

昨年6月から8月までの3ヵ月間、富山県総合教育センターにおいて特別支援教育の研修を受ける機会を得ました。特別支援について、理論や様々な方法論に触れる貴重な経験となりました。加えて特別支援にかかわる者の心構えを教育相談室で過ごす間に感じる事ができました。それは電話で相談を受ける先生方の対応からです。初めて電話をかけてくる保護者に対して優しく的確に相談の趣旨を聞き、相手の気持ちを受け入れながら次のステップへの方向を見いだしていく受け答えは素晴らしいものでした。ここ数年は特別支援学級の担任として就学時検診の保護者面談や入級関係など気の張る場面が増えてきます。初対面の方と込み入った話をするのは難しいものですが、何より先生方のように誠意をもって対応する姿勢を忘れないようにしたいと思います。

この研修を受けた19年度は「特殊教育」から「特別支援教育」への大きな転換期でもありました。本校でも特別支援を必要とする子どもへの対応を学校全体の課題として考え取り組んでいるところです。研修中様々なことを見聞きするたび、日ごろ試行錯誤しながら行っていることはこれからもあきらめずに続けていくことが大切だと思いました。また、特別支援を広い意味で考えるとき、朝日町には他市町村にないものがあることに気づきました。「子どもサポートネットワーク連絡会」という校種や行政機関を越えて集まる会です。17年度から始まったこの会では、助産師さんの話から地域コーディネーターの方の就労支援についての話までいろいろな話題が出ます。しかし、様々な年齢に対応する人が集まっても悩みは似ており、子供の育ちについて長いスパンで考えたり対応の仕方を考えたりするためには貴重な場になっています。

もう一つ「新川地区は進んでいる。」と言われたのは地域の特別支援学校とのつながりが深いことです。本校でも数年前よりいかわ養護学校の先生から支援の方法を教えていただいたり、相談に乗ってもらったりしています。よく来ていただいているK先生が昨年度末の相談の時に「私は困っている子どもたちの代弁者にならなくてはと思っている。」と言われました。このとき、私がこれから目指していかななくてはならないのはこれだと感じました。

教師を困らせる行動をする子どもや、学習成果の上がない子どもは本人の努力だけでは難しい要素を抱えているのかもしれませんが。雑音すべてを耳で拾ってしまう子、文字がまざって見えてしまう子、聞いただけでは記憶に残りにくい子などは勉強ができるようになりたいと願いながら、なぜできないのか分からず困っているのかもしれませんが。「子どもの困り感」を行動観察や今までの育ち、様々なアセスメントによって予想したり、「困り感」を軽減するような手だてを考えたりする事ができるよう子供に寄り添った視点を持ちながらもよりよい方向へ支援していくことが大切です。これまでいろいろな場で研修したことを生かし、校内外の皆さんと連携を取りながら本校の特別支援を進めていく一員となるように励んでいきたいと思っています。

● 学ぶ楽しさ・うれしさ

朝日町立朝日中学校

魚津基子

19年5月から3か月間内地留学として富山大学で研修する機会をいただきました。今、生徒の生活環境の変化に伴い、教師と生徒、生徒相互の人間関係づくりには、教師からの積極的な働きかけが求められてくると考えられます。そこで実践を積み重ねながらソーシャルスキル教育の進め方についての工夫や改善、日常の生活に結びついた学習の在り方を研究していきたいと考え、臨床心理学の分野とソーシャルスキル教育について研修を進めました。

「ソーシャルスキル教育（SSE）の実施」 実施期間 平成19年6月～11月

「生徒同士の良好な人間関係が成立している学級は、まとまっている。また、素直に自分を出しても傷つけられないと思える規律のある集団であれば、生徒同士の感情交流は活性化する。」このように、学校行事、授業、集団生活を充実させるための手立てとしてソーシャルスキル教育を活用することで、生徒一人一人がよりよい人間関係を作り、学校生活に適応できるという仮説を立てて授業を実践しました。

内 容

- 1回 上手なコミュニケーション
- 2回 支え上手になろう
- 3回 職場の人との上手な話し方
- 4回 その気持ちわかるよ

「インストラクション」…目標スキルの重要性を伝える。動機づけ。

「モデリング」…スキルのよい例を提示する。

「リハーサル」…ロールプレイなどで練習する。

「フィードバック」…子どもたちが身につけたスキルに対する賞賛及び修正を行う。

「定着化」…日常生活でスキルが実践されるように促す。（1週間）

このSSEの授業を実践するに当たって、「生徒たちは関心を示してくれるか」「ロールプレイの演習をしてくれるか」等の心配がありましたが、実践してみると多くの生徒が関心を示し、活動的であったことがうれしかったです。授業観察記録や事後の振り返りカードには、SSE授業を肯定的にとらえた生徒の自己評価や感想が多く見られ、SSE授業の展開において楽しく積極的に活動できたことがうかがえました。また、「1週間チェック」を行うことが、学習したことを実生活へつなげる糸口となりましたが、実生活の中で体験してみることを通してスキルを身に付けていくことの必要性を実感していました。定着を図るために朝の会や帰りの会、そして行事ごとに再度確認し、機会を捉えて実施するなど継続的な取り組みが大切であると感じました。今年度も、実践を重ねていくことで指導の改善を図りたいと考えています。

私は、この3ヶ月間で学ぶことの楽しさを感じました。大学時代には、専門外の講義はつまらないものだと決めつけており、真剣に講義を受けたことは少なかったように思います。前の席で講義を受けるなんてもってのほかでした。しかし、この内地留学では、大学ノートは何冊も使い講義録を書き留めたり図書館で調べ物をしたりと意欲的に楽しく学んでいる自分がいました。自分が感じた学ぶことの楽しさや研究するおもしろさを生徒に伝えていきたいと思います。そのために、これから一層、専門分野の技術の研鑽や教師と生徒や生徒相互の人間関係づくりの実践に努めていきたいと考えています。

このような貴重な研修の機会を与えてくださった関係各位に心から感謝しております。